

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ダイキン工業淀川製作所 1工場建	階数	2
建設地	大阪府摂津市西一津屋	構造	S造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、工業	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2019年1月30日
敷地面積	396,667 m ²	作成者	株式会社双星設計
建築面積	5,311 m ²	確認日	2019年1月30日
延床面積	5,996 m ²	確認者	株式会社双星設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超☆☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	最新の空調機器を採用し、工場の大空間においても個々の作業者の快適性が確保できるように配慮した。	その他 特に無し
Q1 室内環境	効率的な空調方式を採用し、良好な作業環境の創出を計画した。	Q3 室外環境(敷地内) 近接する配管ラックや既存建物の高さに合わせる等、周辺環境になじむ計画とした。
LR1 エネルギー	エネルギー消費量が把握できるシステムを導入し、効率的な施設運営を図る。	LR3 敷地外環境 工場用途であるものの、周辺環境への影響は一般建物と同等となるよう配慮した。
Q2 サービス性能	内装材は耐久性を重視して選定した。	
LR2 資源・マテリアル	節水器具を採用し、水資源の保護に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0144

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	ダイキン工業淀川製作所 1工場建設工事					
		建設地	大阪府摂津市西一津屋1-1					
		用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】		CASBEE 総合評価	★★★★★			B+		
①	CO2削減		★★★★★			4		
②	みどり・ヒート アイランド対策		★★★★★			2		
③	建物の断熱性		★★★★★			5		
④	エネルギー削減		★★★★★			3		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.6	4	
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				2.0		
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0	5	
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.1	3	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								